

一般質問

6月20日から22日までの3日間で行った一般質問では、10人の議員が質問に立ちました。



“一般質問”ってなに？

A. 議案と関係なく、議員が市民生活にかかわる課題など、市政全般のことについて質問をする場です。年4回の市議会定例会で行われます。



質問の方法は3つあります

総括方式	一問一答方式	折衷方式
聞きたいことを一括して質問を行い、それに対して答弁者が一括して答弁を行う。質問回数は3回までで、いずれも演壇で発言する。	一つずつ質問し、それに対して答弁を行うキャッチボール方式。議員は質問席、答弁を行う市長などは自席で発言する。	1回目の質問は「総括方式」、2回目以降の質問は「一問一答方式」で行う。

天草市議会定例会や臨時会の様子は、天草市議会の議場での傍聴のほかケーブルテレビやホームページで中継しています。また、ホームページからは録画映像も配信しており、映像はスマートフォンやタブレットでも視聴いただけます。


■ホームページは  ▲市議会 QRコード

※掲載原稿は質問した議員本人が要約したものです。

通番	質問者	質問事項	ページ
10	下田昇一郎	①天草市公共施設等総合管理計画について	P15
9	蓑田庸子	①男女共同参画社会の実現	P15
8	浜崎義昭	①住民の命と暮らしを守るための対策について ②水道料金の見直しを行うべき ③インボイス制度について	P14
7	浜崎昭臣	①天草夕陽観光、日本風景街道について ②天草・八代シーラインについて ③出水く長島シャトルバスについて	P14
6	柳田光芳	①物価・資源高騰対応について ②発達障がいへの支援について ③選挙投票所について	P13
5	五通俊作	①物価高騰に対する地方創生臨時交付金の取扱い ②デジタル田園都市国家インフラ整備計画について	P13
4	吉田修	①若者と女性の政治参加について ②コロナ禍の地域のイベントの在り方について ③子育て世代への臨時交付金(クーポン券)について ④若者や移住者が過ごしやすい環境	P12
3	濱洲大心	①大学誘致の可能性について ②デジタル化、電子マネーの導入について ③小中学校の教職員の就業体制の改革について	P12
2	五嶋善彦	①地域情報化の推進について ②市民交流の場としての中央図書館の在り方について	P11
1	柴田誠	①不妊治療について ②出産祝い金・おむつ券について ③学童の夏休みのお弁当について	P11

1 柴田 誠 (政友会)

●不妊治療について
●出産祝い金・おむつ券について
●学童の夏休みのお弁当について

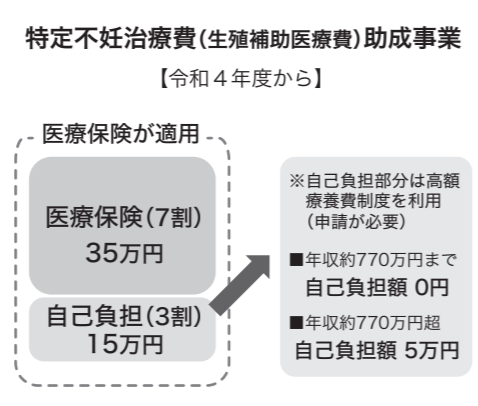


【不妊治療について】

柴田 これまでは医療保険適用外であったため、費用負担の軽減のための助成制度が実現されてきた。4月から医療保険適用となったことで、個人が負担する金額はどくなったのか。

健康福祉部長 医療保険が適用になった本年4月1日以降では、50万円の治療費がかかったと仮定した場合、7割の35万円が医療保険、3割の15万円が自己負担額となるが、医療保険の高額療養費制度を活用すると、自己負担額が住民税非課税者は約3万5千円、年収約770万円の方で約8万3千円となる。この自己負担額に対し、本市の不妊治療助成制度を利用したと、自己負担額なしで治療ができることになる。

【出産祝い金・おむつ券について】
柴田 本市で取り組んでいる電子クーポンの普及促進を図るため、



健康福祉部長 現在のところは考えていない。


【学童の夏休みのお弁当について】

柴田 例えば、保護者負担を200円、市の補助を100円とし、希望する家庭の昼食はお弁当を注文し、費用の一部を補助できないか。

健康福祉部長 食物アレルギーへの対応もあり、考えていない。

2 五嶋 善彦 (市民クラブ)

●地域情報化の推進について
●市民交流の場としての中央図書館の在り方について

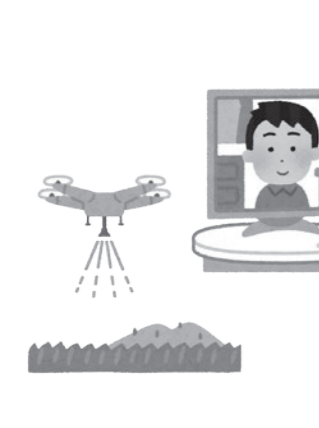


五嶋 今後、行政のあらゆる分野でデジタル化が求められる中で、市長の考えは、

市長 行政分野でデジタル化を推進することは、本市の課題解決の重要な鍵となる。本市が直面する高齢化や過疎化など、さまざまな地域課題に活用し、取り組んでいく必要がある。

五嶋 行政のデジタル化を進めるにはインターネット環境の格差是正が必要であるが、

市長 均衡ある豊かな生活環境の



実現のため、情報通信環境の格差解消に取り組んでいく。

五嶋 国が提唱する「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、どのように受け止めているか。

政策審議監 本市においても、すばらしい自然、歴史や文化、豊かな農林水産資源など、天草の魅力を感じながら都市の利便性を享受できるようにすれば、さらに本市の求心力が高まると考えている。

五嶋 中央図書館を含む複合施設「ここらす」は、オープンして3年目を迎えるが、建設の基本コンセプトである「市民交流の場の提供」は、実現できているか。

市長 市民の学習の拠点として利用しやすい図書館につながっている。ここらすは、利用者の声や利用状況からも、幅広い年齢層の世代間交流の場となり、さまざまな活動や健康づくりの循環が生まれていると考えている。